



# 学校通信

平成29年度 第7号  
平成29年11月 1日  
練馬区立開進第三小学校  
校長 土屋 信行

## 子供たちとの絆

校長 土屋 信行

10月21日に開催しました学芸会には、多くの皆様のご来校をいただきまして有り難うございました。実施後のご感想でも、子供たちの光り輝く演技（表現力）にたくさんのお褒めの言葉を頂戴し、教師一同も大きな励みとなりました。

学芸会当日に至るまで、どの学年も子供たちと教師が日々努力を重ね、本番ではその成果が十分に発揮されていたと思います。会場中が「いい顔」であふれ、子供同士の、そして演じる子供たちと指導してきた教師の絆が更に深まったことを感じました。保護者の皆様には、練習から本番に至るまで、多くのご協力をいただきまして本当に有り難うございました。また、改善すべき点につきましては次回の開催時に生かして参ります。ご指摘に感謝申し上げます。

さて、このみんなの「いい顔」を見ていて、一つ思い出したことがあります。それは、私が開三小で6年生の担任をしていた時の失敗談です。

春の健康診断の「尿検査の容器」をうっかり配り忘れしました。教室のスチール棚に入れっぱなしにしていたことに気付いたのが回収日前日の午後4時半頃でした。

「まずい、配りに行かなくては」と思いながら校庭を眺めると、自分のクラスの男子を一人発見しました。「そうだ」と、すぐにその子に事情を話し、「何人か集めてほしい」と頼みました。すると5時には、女子も含めた6人の精鋭が学校に集まってくれました。そしてみんなで手分けをしてくれて、6時前には全員に配り終わることができたのです。その6人には内緒のお礼（秘密です）をして、何とか事無きを得ました。

次の日、私はみんなに謝り、6年の子に改めてお礼を言い、クラス全員が何故か穏やかな「いい顔」で笑っている中、尿検査の容器を回収しました。保護者の方も皆様寛大でお叱りの言葉もなく、やや大げさかもしれませんが、子供たちとの絆を感じた、今思い出しても心が温かくなるような思い出となっています。

5年生の担任として一年間、日々の生活を共に過ごし、学年・学級の様々な行事やイベントを経験し、気心も十分に知れた中で迎えた6年生の春の出来事でしたので、このような印象になっているのでしょう。

私たち開三小の教師は、今回の学芸会での経験を生かし、これからも子供たちとの絆を深めるべく日々努力を重ねて参ります。そして、誰もが朝起きたときに「今日も学校に行きたい」と思えるような、そんな学校の実現を目指します。

今後ともご理解・ご協力の程どうぞ宜しくお願い致します。

